

春日幸子
Kasuga Yukiko

デディベアが はこんだ夢



春日幸子
Kasuga Yukiko

テディベアが はこんだ夢



●著者紹介

1943年茨城県生まれ。
1963年、桜美林学園短期大学英文科卒業、
日本交通公社に入社。結婚を機に同社を退社し、茨城県鹿嶋市の春日病院理事に就任、現在に至る。また日本キリスト教団鹿島教会に属し、ボランティア活動に参加。

NDC 914 214p 20cm

ティベアがはこんだ夢

1999年5月25日 第1刷発行

著者 かすがゆきこ
春日幸子

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

販売部 ☎03-5395-3622

製作部 ☎03-5395-3615

編集 株式会社第一出版センター

代表 大竹勝五郎

東京都新宿区新小川町9-25 日商ビル 〒162-0814

編集部 ☎03-3235-3051

印刷所 廣済堂印刷株式会社

製本所 牧製本印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。
落丁本・乱丁本は、講談社の書籍製作部宛にお送り下さい。送料小社負担にてお取り替えます。
なお、この本についてお問い合わせは、第一出版センター宛にお願いします。

©Yukiko Kasuga 1999, Printed in Japan

ISBN4-06-209618-8（セ）

テディベアがはこんだ夢

テディベアがはこんだ夢―目次

プロローグ 7

第一部 パバの夢、ママの夢

パバは「鹿島アントラーズ」のチームドクター	11
アントラーズがくれた誇りと自信と勇氣	14
Jリーグ加盟をこたわられたアントラーズ	16
「神様」ジーコがやってきたー	17
サポーターのサポーター、パバ	19
パバとママの生い立ち	23
幼なじみのノブちゃんとユキちゃん	25
将来を誓いあった高校時代	28
希望を持てば、夢は実現できる	30
「来る者拒まず」パバとママの新婚生活	33
リンゴの里、弘前の思い出	35
めぐみちゃんが生まれたー	38
地球をつなぐ輪	42
パバとサードが教えてくれたこと	43
「カントリー&ウエスタンの本場へ行きたい」	45
「光のしずく」	47

第二部 めぐちゃんの夢

どんなときも、へこたれなかったパバ	50
パバの病氣は臍臓がん	53
「サード」の名前は十二使徒のひとりから	56
言葉のカー「主の祈り」	58
手術は成功したけれど……	61
言葉の持つ大きな力を信じて	63
春日ファミリ―に笑顔がもどった	67
限られた時間	70
「体は病んでも精神まで病んではいけないんだ」	72
パバの無言の教え	75
天へ帰った「世界一のパバ」	78
太陽が爆発したみたいに……悲しい	83
パバがいたときのようにくらそう	86
パバの代わりに人形を世界旅行へ	89
夢のはこび役はボク、マツクに決まった	91
パスポート代わりの手紙	93
サードとはじめての国アメリカへ	96
オリンピックと爆弾テロ	98
サードの故郷、ノースカロライナ	101
スウェーデンのロビサのもとへ	103

ロビサの生徒とクラスメイトになった	106
フランチェスカとフィレンツェへ	111
パパが永遠のサポーターになった	113
フィレンツェとシチリアは別の国?	114
ロビサの訪問とママの投書	116
サードのママが鹿嶋にやってきた	119
サードの帰国	121
合い言葉は「マックはどこに?」	123
ベローナのスキロ一家とリツカドンナ一家	125
妹「メイブル」の誕生	128
テレビ出演	130
マックはベローナにいた	132
マックの足跡をたどる旅	134
「旅をした人は多くのことを知る」	136
「ママ、アイスクリームが買えたよ」	140
温かいリース・ファミリー	142
アメリカでのクリスマス	146
ノースカロライナの自然のなかで	150
ピアノを弾いて、メグミちゃん	153
パパの代わりにナツシユビルへ	155
パパは太陽、ママは暖かい暖炉	158
大都会・ニューヨークへ	162
サンタクロースを信じるエバレット・ファミリー	167

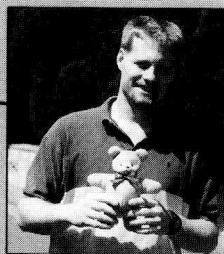
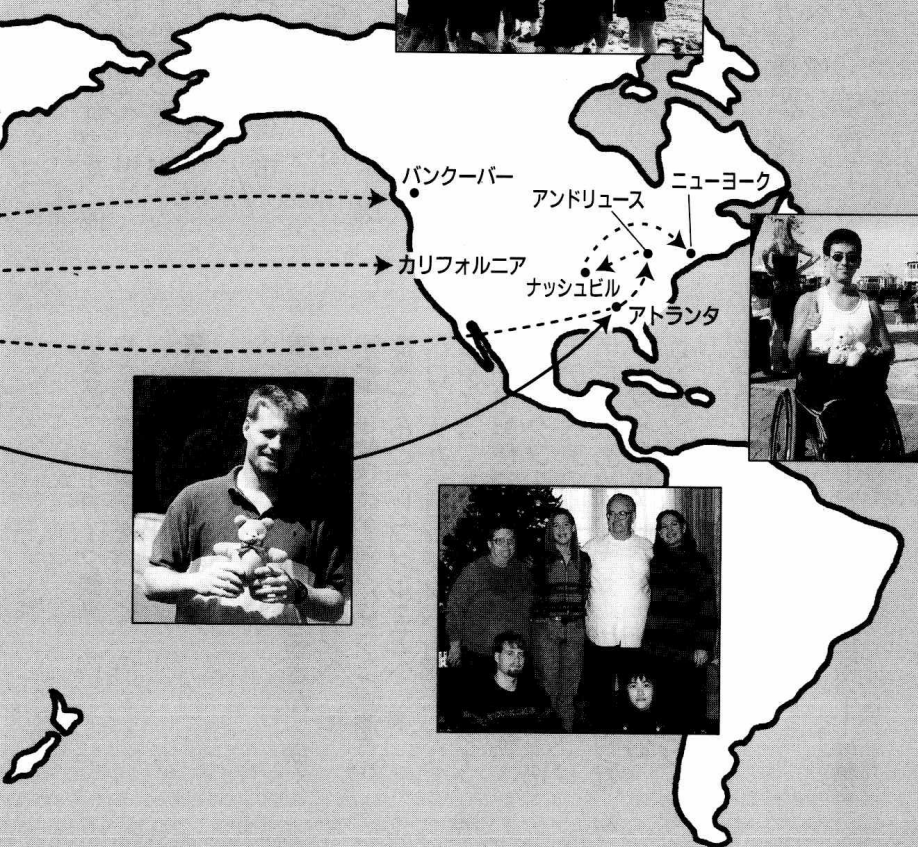
小雪のニューヨーク観光
やさしさと勇気を持って 174 170

第三部 みんなの夢

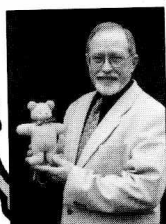
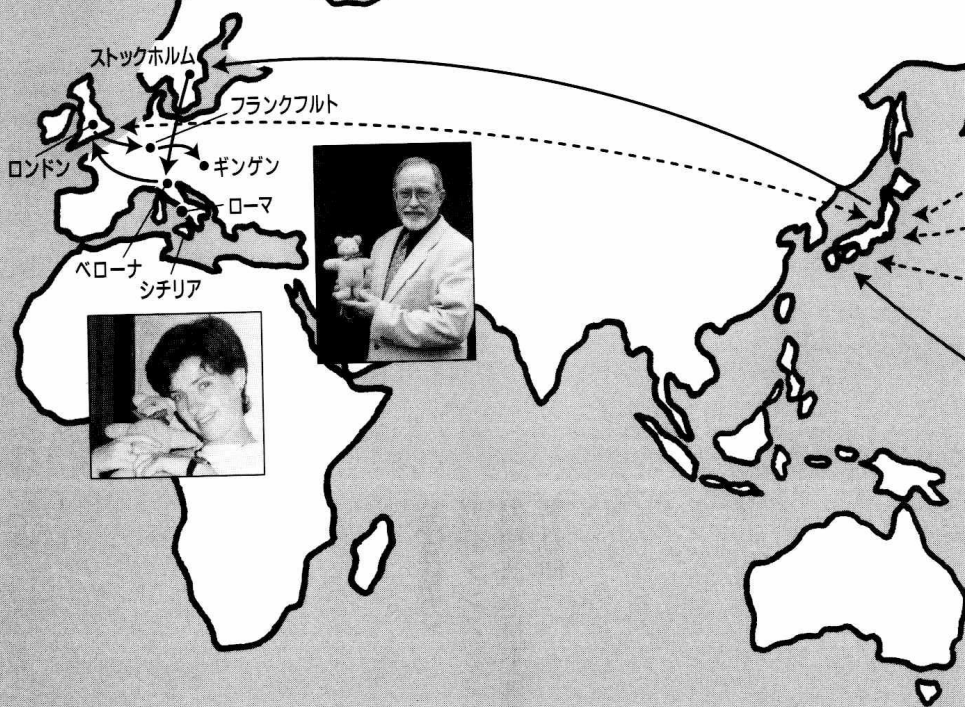
ベローナからの手紙	179
車いすダンスと松島トモ子さん	180
マックの代わりにロンドンへ	182
国際車いす競技大会で踊る松島さんと長澤さん	184
長澤さんとカリフォルニアへ	185
ベローナからロンドンへ	188
「デイベア・ママ」マルガレーテ・シユタイフ	190
国際宅配便でフランクフルトへ	193
フランクフルトのデイベアたち	195
デイベアの名前の由来	197
デイベアの故郷、ギンゲンのシユタイフ社	201
シユタイフ博物館の大先輩たち	202
ユンギンガー館長からのメッセージ	206
エピソード	209
あとがき	212

—— マックの旅

----- メイフルの旅



《マックとメイブルの世界の旅》



〈写真協力〉

月刊ダンスビュー

財団法人日本玩具文化財団

若月伸一

プロローグ

ボクの名前は、マック。身長二〇センチで、茶色のフェルト製のテディベア。一九九一年に、宮嶋裕子さんという人がボクをつくってくれました。そして、茨城県鹿嶋市に住む、春日信照さん（ボクのボス。ボクをかわいがってくれるめぐみちゃんは「パパ」とよんでいるから、ボクもパパとよびます）のところへもらわれてきたのは、一九九二年の秋のことです。

一九九六年七月、ボクは成田国際空港からアメリカへと旅立ちました。旅のお供は、アメリカ人のサード・リリース。めぐちゃんのメッセージを持って、世界旅行をするのです。めぐちゃんのメッセージは、その年の四月に亡くなったパパの夢、世界旅行をボクが代わりにして来ること。そのために、世界中の人がボクをリレーしてください、ということでした。パパの夢は、めぐちゃんやママ、お兄ちゃんの信弘さんと賢二くんの夢、つまり春日ファミリーの夢でもありました。

飛行機に乗れば、サードの故郷ノースカロライナまでは一五時間。このペースなら、

一カ月もすれば、世界中を回って茨城県鹿嶋市の春日ファミリーにもどれる……世界の国々はどんなところだったか、どんな人が世話をしてくれたか、めぐちゃんや幸子ママにお話してできると思いました。……でも、その旅はもう二年半になろうとしています。そのあいだにボクには「メイプル」という妹もできました。メイプルも、いろいろな国を旅しています。

アメリカからスウェーデン、イタリアですごしたあと、イギリスに渡り、ボクはいまだイツにいます。夢は、まだ半分くらいしか実現していません。

にんべん（人）に夢と書いて、「儚い」という字になります。ボクはどこかで迷子になるかもしれないし、こわれてしまったかもしれない。でも、たくさんの人たちが、めぐちゃんの願いを聞き届けてくれました。たくさんのおかげで、小さなほかない夢が、かないそうなのです。

なぜボクが故郷を遠く離れて旅を始めたのか、どんな旅をしてきたのか。お世話になった人たちへの感謝もこめて、メイプルにも手伝ってもらって、これからお話をしようと思います。

第一部

ボクが代わりに果たすことになった、
まざまな国々に旅をすることでした。
パパの夢、ママの夢
パパの夢。それは、家族で世界のさ



パパとママ、はじめてのツーショットの写真。高校1年の夏、セピア色の思い出は遠くて近い青春のひとつです。

パパは「鹿島アントラーズ」のチームドクター

パパが亡くなったのは、一九九六年四月二六日。脾臓すいぞうがんでした。日本キリスト教団鹿島教会で、二八日に前夜式、二九日に告別式が行われました。パパもママも、パパのお父さんの正信まさのぶさんも、春日かすかフアミリーはクリスチャンなのです。

祭壇さいだんにかざられたパパの遺影いえいは、ホームのカシマススタジアムで撮とった写真。白いジャケットを着て腕うでを後ろに組んだパパは、すこし照れたような、でも誇ほこらしげな顔です。眼鏡めがねの奥おくのやさしい目が集まった人たちを見つめています。そのなかに、Ｊリーグ鹿島アントラーズのジーコ総監督そうくんとくやエドゥ前監督の顔が見えました。二七日のヴェルディ川崎戦かわさきの前に、ジョアン・カルロス監督は、

「ドクターのためにも、今日は勝とう」

「勝って首位に立つんだ」

と話し、パパのために黙禱もくとうを捧ささげてくれた選手みなさんもいます。先制せんせいされ、逆転ぎやくてんした苦しい試合の後なのに、告別式にエドゥ前監督はじめみんなが集まってくれたので

す。

そうです。パパは、鹿島アントラーズのチームドクターだったのです。

パパが勤めていた鹿嶋市の春日病院は、おじいちゃんが一九四五年に鹿嶋にやってきて開院した、個人病院でした。東京医科大学を卒業して心臓外科医になったパパが、ママと結婚してから青森県の弘前や新宿の東京医大病院、東京医大霞ヶ浦病院で修業を積んで、故郷の病院にもどってきたのは、一九七七年のことです。

「春日病院を、地域に必要とされるいい病院に」

そう考えたパパは、院長先生で双子のお兄さんの正照さんといっしょに、がんばりました。病院が大きくなって、

「やれやれ、これからゆつくり子どもと遊んだり、家族で旅行に出かけられる」

と思い始めた、一九九二年のことです。鹿嶋の町に「鹿島アントラーズ」というプロのサッカーチームができることになったのです。

ボクが春日ファミリーのところに来たころ、パパはあまり家にいませんでした。

「外科医というのは、ものすごくハードな仕事なんだ」

と、パパは言いました。家に帰ってひと休みしたと思うと、急患が入ったこともあり

ます。疲れていても、往診おうしんといって病気の人の家に出かけたこともあります。「パパ、忙しくってたいへんだね。お仕事がんばってね」って、まだ小学生だっためぐちゃんはパパに声をかけました。

チームドクターになってからのパパは、カシマスタジアムで試合があるときは、病院からスタジアムに直行です。ナイトゲームは病院の仕事を終えてから、デーゲームは仕事の合間をぬって、スタジアムに駆け付けました。看護婦かんごふさん一名と二時間前にスタジアムに入って待機。選手はもちろん、具合が悪くなったお客さんにも対処たいしよできるようにスタンバイするのです。ゲーム中はベンチに入って、戦況せんきやうを見つめています。

スタジアムを出るのは、ゲームが終わって一時間くらいあとのこと。延長えんちやう、さらにPK戦にまでなると、合計六時間ほどスタジアムにつめていることになります。試合が終わっても、けがをした選手の治療ちりやうをしたりしてから帰るので、家に着くのは午後一時すぎ。めぐちゃんは、いつも眠い目をこすりながら、パパの帰りを待っています。

パパはともうれしそうでした。それは、鹿島アントラーズが最初の年に優勝ゆうしょうしたからだけではないようでした。勝ったときだけでなく、負けたときでも悔やしそうにしながら、どこか満足そうだったからです。

アントラーズがくれた誇りと自信と勇気

ママが、そのわけを教えてくださいました。パパとママは、小学校一年生のときから、鹿嶋でいっしょに育ちました。アントラーズが、故郷の鹿嶋に誇りと自信と勇気をくれたから、パパはうれしかったのだと、ママは言いました。

『鹿嶋立ち』という言葉があるの。『広辞苑』を見ると、『旅行に出で立つこと。かどで。出立』という意味が載っているでしょう。鹿嶋と香取の二神が天孫降臨に先立って葦原中つ国を平定したという記紀神話や、辺境防衛に旅立つ防人が鹿嶋神宮の前立の阿須波神に旅の安全を祈願したことがもとになった言葉なの」

パパは小学校を卒業してから、ママは高校を卒業してから、「鹿嶋立ち」をしました。そして、もどってきました。関東平野の東のはずれにある小さな町、Jリーグへの加盟を一度はことわられたチーム。「鹿嶋」の名前がついたチームは、鹿嶋にくらす人はもちろん、そのまま別の土地でくらすようになった鹿嶋出身の人にとっても、「郷土の誇り」「郷土の象徴」なんだそうです。